

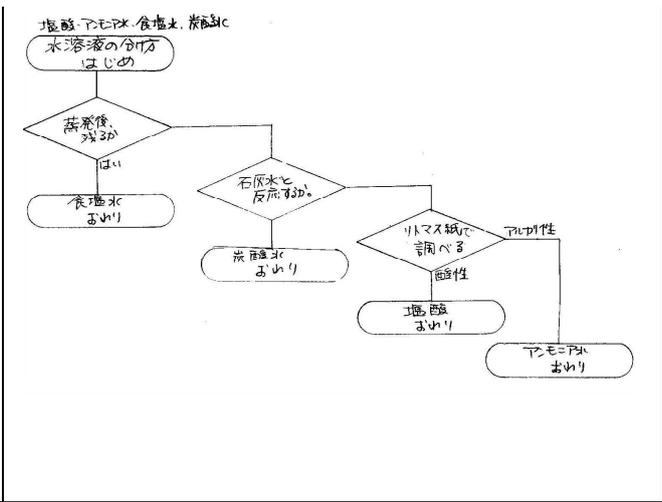
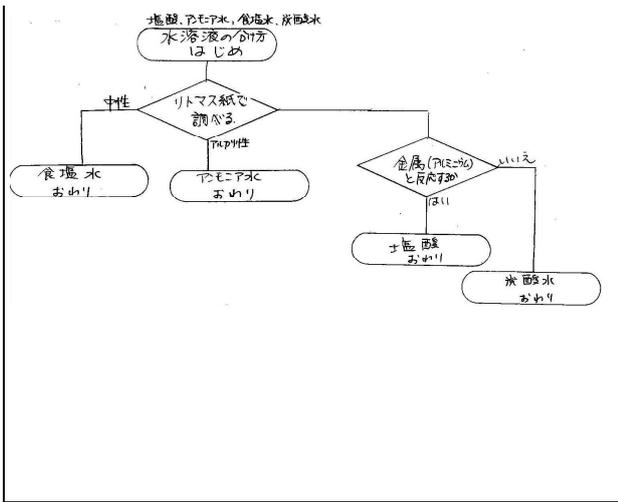
単元名 小学校6年理科 「水溶液の性質」

制作・著作 ユーレカ工房

単元計画	11・12時間目／全12時間 第1次 気体が溶けている水溶液(4時間) 第2次 水溶液の仲間分け (3時間) 第3次 金属を溶かす水溶液 (3時間) 第4次 活用課題(本時) (2時間)
本時の目標	今までの水溶液の性質の知識を生かして、名前を伏せた水溶液を特定する実験方法を考えることができる。
授業の概要	水溶液4種類(炭酸水・塩酸・食塩水・アンモニア水)の名前を伏せた状態から、その溶液を特定する実験方法を考える。その際、分別する実験を示すには、フローチャートを利用する。フローチャートを使ったことで、実験の順番が分かりやすく、比較検討もしやすい。考えた実験方法を検討修正後、次時で実際に水溶液を分別できるか、実際に実験し確かめる。

☆推奨時間(2時間)

活動内容	指導上の留意点
<p>1 本時の課題をつかみ、予想を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>名前を伏せた4種類の溶液(炭酸水、塩酸、食塩水、アンモニア水)をそれぞれ特定することができるだろうか。</p> </div> <p>・教師が書いた実験方法作文を見せ、実験方法を表す上で の問題点や改善策を考える。</p>	<p>今までの実験の中から、リトマス紙・蒸発・におい・アルミニウムや鉄との反応性、石灰水との反応、見た目などを生かすことで分類できる見通しを持たせる。</p> <p>作文風を書くよりも、箇条書きやフローチャートを使うとより分かりやすいというアイデアを出させる。</p>
<p>②実験方法を考える。</p> <p>・一人一人、分別するための実験方法を考える。</p> <p>・グループで話し合いながら、4種の溶液を分類するための方法をホワイトボードに表す。</p>	<p>今までの実験の結果を一覧表にして掲示すると、分かりやすい。</p> <p>箇条書きやフローチャートなどを使って、自由に書かせる。</p>
<p>③それぞれのグループが出し合った実験方法をもとに、話し合う。</p>	<p>・表現手法に注目し、フローチャートだと実験の順番や、判別の仕方などが分かりやすいことに気づかせる。</p> <p>・合理的で、分かりやすい、正確に分けられるといった視点で、比較したい。</p>



⑤まとめ

順番に実験していくことで、水溶液を分別できる
だろう。

・振り返りを記入する。

- ・実験方法は様々あること。
- ・順番に実験していくとで分別できる。

次時に、このフローチャートを使って、実際に溶液が分別できるか、実験を行う。